

- *パウロのエペソの信徒たちに対する祈り。「どうか、私たちの主イエス・キリストの神、すなわち栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しによって与えられる望みがどのようなものか、聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか、また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知る事ができますように。」（エペソ1：17～19）この祈りの内容は、信仰の成熟には三位一体の神のことをよく知ることが必要であるということである。神のことをより深く知れば「心の目がはっきり見える」ようになる。外を見る目やこの世を見る目ではなく、心の目、すなわち内なる魂の目がよく見えれば、神がどう考えておられるのか、神のみこころを知ることができるようになる。
- *「神の召しによって与えられる望みがどのようなものか」を知る。「召し」とは、神が私たちを救うために呼ぶこと。神はすべての人に救われてほしいと願っておられるので、全ての人召されているとあってよい。しかし、「召された」者はそれに答えて、クリスチャンになった。第二段階の「召し」とあってよいだろう。さらに、私は48歳の時に神から「献身して牧師になりなさい」という特別な「召命」をもらって決心をして神学校に入り、牧師の道を歩むことになった。しかし、クリスチャンであれば誰でも「召命」がある。この世でキリストを証しし、キリストを伝えることである。人生の目的であるともいえる。「召しの望み」とは、イエス・キリストに似たものとされ、罪のない完全な聖さ、永遠のいのちを得て、救いの完成に入ることである。
- *「神の力がどれほど偉大であるかを知る」ようにパウロは祈る。神の偉大な力は信じる者に働く。この世の創造から、イスラエルの民に現れたしるし、イエス・キリストのふしぎな業の数々は神の偉大な力の現れ。しかし、私たちと最も深い関係にあるのは、私たちを救う力である。父なる神の、すべての人が救おうとすご意志、子なるキリストが成し遂げられた十字架の贖いとよみがえり、聖霊がイエス・キリストを信じさせ、私たちの中に宿って聖めてくださる。三位一体の神が文字通りその力を最大限に発揮されて達成されたことである。

私たちはこの神の御力の偉大さを日々の信仰生活において体験で知って、救いの恵みに感謝しながら充実した日々を送りたい。

